

目次

新刊雜誌記載參考記事目次……………1137 || 大東亞戰爭日記摘要○業界雜報……………1137

新刊雜誌記載參考記事目次

大陸科學院彙報 第6卷第3號 康徳9年6月

二次元不定常熱傳導問題の有限差方程式に依る解法 前田敏男 29

動力 79 昭和17年7月

黒田式コークス爐の變遷並に大野式コークス爐の構造 大野宏 59

技研 第2卷第3號 昭和17年5月

トーマス鋼による製品並びに用途 菊池浩介 1

製管用鋼塊の異常破面に就て 根守侃 10

磁硫鐵礦利用に關する研究 原田正夫・根岸英次 14

製鋼工場に於ける廢品回收 大西利一 20

ドリルパイプの腐蝕疲勞(1)譯 24

大東亞共榮圈及其周邊の礦物資源と對世界生産高割合

工業評論 第28卷第8號 昭和17年8月

戰時生産力擴充政策の發展と現段階的意義 藤井源榮 2

原價要素に就いて 神馬新七郎 8

機械賃働率増進運動に付て 山田穆 16

注目すべきガス加熱法 佐藤貞雄 26

華北の石炭開發狀況に就て 43

特殊鋼疲勞限界と時效 田川淺次郎 E56

熔接と時效硬化に就て 美馬次郎 E57

九州帝國大學工學彙報 第17卷第1號

張力下の Ni-Fe-Co 合金線のエチレンと水素との反應に對する觸媒作用 小川英次郎・邨田壽男 1

鑿岩に關する研究(第3報) 大隅芳雄 62

マンガン酸化物の觸媒的研究(III) マンガン酸化物に依る二酸化炭素の吸着に就て 坂井渡・福山大人・奥野俊郎 67

Proceedings of the Imperial Academy Vol. XVIII, No. 7.

On Certain Green Minerals Associated with Some Japanese Nickel Ores T. Sudô & T. Sugiyama 400

朝鮮礦會 第27卷第7號 昭和17年7月

朝鮮産無煙炭の特性と利用に就て 石橋弘毅 1

平安南道江西郡壽嶺山に於ける試鑛作業實績に就て 近藤忠三 7

New Caledonia の鑛業價值(林) 30

錦州省瓦房子マンガン鑛床(高橋) 36

アリゾナの石棉鑛床(村越) 37

サイプス島の石棉鑛床(村越) 37

メルクス探鑛力學(32)(堀部) 38

フィンカイ濕式選鑛法の原理(4)(江澤) 45

工學と工業 第10卷第7號 昭和17年7月

大東亞礦物資源の展望 山根新次 1

土木學會誌 第28卷第8號 昭和17年8月

河西橋に關する報告及び研究(其の2)鐵筋の鍛接繼手に就て 横道英雄 707

一圓孔を持ち、縁上に等分布荷重を受ける半無限板の應力 村上正 718

電氣製鋼 第18卷第8號 昭和17年8月25日

固體代用燃料に就て(II) 清水定吉・松井清 291

鐵及び鋼中の硫黃除去の基礎(譯譯)河村劔次郎 305

鋼材の検査法(其の1)火花試驗(1) 野田一六 329

採冶 第20年 第8報 昭和17年8月15日

選鑛油の氣泡に就て 鶴田重治 319

ポンプと浮選機との關係 大谷友雄 323

日立評論 第25卷第8號 昭和17年8月10日

熱歪力による曲り防止 福田公雄 456

熔接施行法の一考察 島野滋 463

代用電線に就て 木戸行男 480

耐電弧絶緣材料 中野義映・松井千里 486

球狀パーライト可鍛鑄鑛 木村庶幾 495

滿洲冶金學會會報 第4卷第34號 昭和17年8月

低磷銹の吹製に就て 阿部徹・藤田守太郎・後藤有一 1

貧マンガン鑛利用に關する一考察 有山恭藏・藤田守太郎 13

マンガン 三好庄八 34

金屬マンガンの製造法 池野尙志・森永卓弐 47

鑛業會 第50集第596號 昭和17年8月15日

各種生粘土の加熱に依る長さの變化に就て(III) 山内俊吉・加藤左織 374

高周波絶緣物の研究 伊藤集暢 378

耐火煉瓦のパネルスポーリング試験に就て 河合幸三・篠原武夫 384

磷珪石煉瓦の試作に就て(I) 高良義郎・池ノ上典 389

無硼酸硬質ガラスの研究 中西健治・中川宗彌 394

水硬性耐火セメントの研究(III) 永井彰一郎 399

炭酸マグネシウムの製造と其の質驗報告 梶原政次 405

各種保溫煉瓦の安全使用溫度決定法 田所芳秋・須賀高吉 749

鑛工滿洲 第3卷第8號

第一次計畫を基盤に滿洲産業建設の新段階 楠田寛治 6

日本鑛業會誌 第58卷 第688號 昭和17年8月

第二高松炭坑開發に就て 興侶友兼 491

黒鑛開發探鑛に就て 堀内孫十郎 501

銅合金屑の直接電解による分離に就て 徳永惇 517

ニッケル鑛の製鍊法に關する研究 穴澤健次 530

滿他鑛處理法に關する研究(第2報) 柳原正 540

大東亞戰爭日記摘要

8月30日 前駐日米大使グルーコロムビヤ放送局を通じて、「日本が經濟的困難で屈服するなど考へてはならない日本國は個人としても集團としても君國のため欣然死に赴く覺悟を持つてゐる。従つて吾々もまたあらゆる能力をふるつて日本と戰はねばならぬ」と米國民の奮起を促した。

9月1日 政府は1日の閣議において拓務省、興亞院、對滿事務局等を廢止し大東亞省を設置する要綱を定めた。東郷外相辭職し首相兼攝す。

9月17日 ストックホルム特電 15日發 米國サンフランシスコ。よりの報道によれば、米西部防衛司令部は去る9日日本水上機がオレゴン州南部海岸に初空襲を行ひ焼夷彈を投下した旨 14日夜發表した。尙米陸軍偵察機は空襲と同時に對る同海岸 48 キロの沖合に國籍不明の潜水艦 1 隻を發見これに爆撃を加へたが結果は不明であつた。

業 界 雜 報

8月中開催の委員會名並に其の議題 工業品規格統一調査會

1. 第2部第21委員會 8.7.
色
2. 第2部第21委員會測色及製作小委員會 8.14.
3. 第2部第21委員會測色委員會 8.28.
4. 第2部第26委員會 8.4.
 1. 斷熱煉瓦規格
 2. 耐火物の耐壓強度試験法規格
 3. 耐火物及其の原料化學分析方法
 4. 光學ガラス製造用原料藥品規格
 5. 光學ガラス製造用原料藥品試驗方法
 6. 砥料粒度規格
 7. 熔融酸化アルミニウム質砥料化學分析方法
5. 第3部第2委員會 8.5.
自動車用電球
6. 第3部第2委員會 8.14.
 1. 委員長互選
 2. 自動車用電球
 3. 電球用 S/5 及 T/5 の口金及受金
 4. 集魚燈用電球のガラス球徑の改正
7. 第3部第4委員會 2日2回 8.3. 8.14.
通信用亜鉛メッキ鐵線
8. 第3部第5委員會 8.13.
 1. 珪素鋼板
 2. 珪素鋼板標準磁器試験
9. 第3部第5委員會 8.25.
起重機用全閉巻線型 3 相誘導電動機
10. 第3部第7委員會 8.17.
 1. 委員長互選
 2. 電氣用絶緣ワニス
11. 第3部第9委員會 8.20.
 1. 架空配電線用アルミ線導體接續方法
 2. アルミ線壓縮接續工業
12. 第3部第12委員會 8.11.
乾電池及空氣乾電池
13. 自轉車用ランプケースに関する打合會(3の2) 8.4.
14. 電氣用石綿セメント板に関する打合會(3の臨の2) 8.6.
15. 電氣關係品中急速規格制定を要する品目及其の原案作成に關する打合會 8.26.
16. 第4部第1委員會 8.7.
 1. 叩スパナ
 2. ネヂ記號
 3. バネ座金規格中改正
17. 第4部第1委員會第3小委員會 8.24.
ネヂ用限界ゲージ

18. 第4部第2委員會 2日2回 8.3. 8.28.

19. 第4部第4委員會第2小委員會 8.21.

1. フライス

2. センタ孔

3. センタ錐

20. 第4部第7委員會 8.11.
製圖規格改正

21. 第4部第12委員會 8.14.

1. 自動車用カギスパナ

2. " 管接手

3. " スプライン接手

22. 第4部臨時第2委員會 8.5.
クラツシャー

23. 第4部臨時第3委員會 8.6.
起重機

24. 第4部臨時第4委員會 8.26.
動力用ブツシユド, ローラーチエイン

鐵鋼増産に次の如き動きがあつた。

八幡製鐵所は新に景山齊氏が社長となり職制の一部が改革される筈(福岡日日, 9月16日) 5月以來鐵鋼統制會の臨時設備委員會で設備の標準化を研究し, 各設備をあはせて約 25 種にし, 平生會長に答申することゝなつた。(都, 9月10日) 朝鮮では鐵鋼統制會朝鮮支部が出来, 朝鮮鋼材販賣會社によつて一元的に配給されることとなり(京城日報 8月6日) 臺灣では鐵鋼販賣統制會社の臺北支店を設け(臺灣日日 8月25日) 滿洲では鐵鋼協會が出来て, 各会社の生産實態の調査, 政府業社間の報告届出書類の取扱, 鐵鋼増産に關する企畫立案をすることゝなり(中國合同 9月5日, 滿洲日日 9月2日, 滿洲新聞 8月24日) 製品は内地朝鮮に統一化を計畫してゐる(京城日報 9月15日, 東京中外 9月13日)。

原料製品の輸送については船版は 9月17日統制理事會で計畫が成り立ち(大阪毎日 9月18日, 東京都 9月19日) 鐵道は 10月1日から切符制として計畫輸送が初つた。(大阪朝日 9月10日, 9月17日)

生産消費の割當は統制會 17日の定例理事會で本年 10月から 12月迄の假割當が決定した(東京都 9月18日)

新設は熔鋼爐が本溪湖で 11月1日から火入れになり(滿洲日日 9月13日, 京城日報 9月14日, 滿洲新聞 9月16日) 朝鮮では來年頃鴨綠江下流に設置され(東京讀賣 9月9日) 臺灣は原料は乏しいが大陸からの輸送は樂なので總督府と日鐵が製鐵所建設を計畫して居り(臺灣日日 9月11日) 蒙疆でも機械工業の進展に伴ひ製鐵所建設が問題となつてゐる(蒙疆新聞 9月12日) 一方鐵屑は配給統制規則第 8 條を發動して徹底的に回収する。(名古屋新聞 9月1日, 9月17日)

米國ではルイジアナ州ニューオーリアンスのヒツギンス造船會社は 200 隻の商船建造が解約になり(上海大陸 7月28日) 陸海軍への優先配給も停止され(東京中外 9月8日) 本年の鐵鋼全生産量見積 8600 萬噸に要する屑鐵 1705 萬噸が調達出來ず(東京都 6月13日) 機關車貨車の注文も解約となるもの多く困難に遭遇してゐる(臺灣日日 9月4日)

アルゼンチンでは輸出價額騰貴の爲國內の價格が上るのを防ぐ爲 1噸 450~500 ペツに釘付した(上海大陸 8月15日)